

P-390

S-1、レンチナンが奏効した胃癌、同時性肝転移の1例

静岡赤十字病院 外科

○小林^{こばやし} 秀昭、森^{ひであき} 俊治、磯部 潔、溝田 高聖、
林 洋子、雑賀 三緒、大島 令子、熱田 幸司、
下島 礼子、宮部 理香、新谷 恒弘、白石 好、
中山 隆盛

症例は、糖尿病、アルツハイマー型痴呆の併存疾患のある80代男性。2009年10月、意識障害出現し、救急車で当院に搬送され入院した。原因は低血糖発作であった。入院後、上部消化管内視鏡検査で前庭部に1型腫瘍を認め胃癌と診断。さらにCT検査でS6肝転移の診断で、11月当科紹介された。血液検査で、腫瘍マーカーCEA 7.54 ng/ml と軽度高値であった。病期はcT4aN2M1: cstage4と診断。2009年11月よりS-1 80 mg/body/day 、2週投与1週休薬で投与開始した。2010年3月の効果判定は、原発巣、転移巣ともにPRを得た。S-1継続投与していたが腫瘍マーカーCEAの増悪を認めたため、2010年11月よりレンチナン(点滴) 2 mg/body/day 、3週に1回投与開始。その後、腫瘍マーカーCEAの改善を認めた。今回われわれはS-1が奏効し、さらにレンチナンの上乗せ効果を認め長期生存した胃癌、同時性肝転移の1例を経験したので、若干の文献的考察を加え報告する。